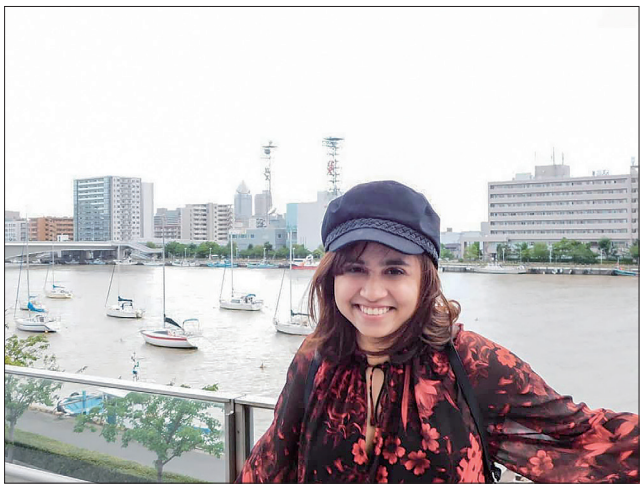
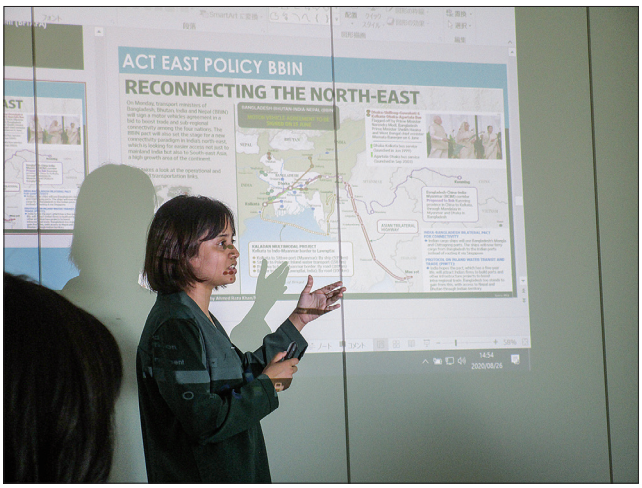
インターンシップ報告

ERINA は、北東アジア地域経済の発展の促進や日本と地域の協力の強化に向けて、情報を発信し、調査研究や経済交流事業に取り組んでいる。北東アジア地域経済を専門とするシンクタンクとして活動する中で、その専門的な知識やノウハウを社会に還元すべく、研究業務に従事する機会を提供するとともに、北東アジア経済に対する理解を深める目的で、大学院生をインターンとして受け入れてきた。インターンシップの受け入れに際しては、調査研究部の研究員がメンターとして指導し、研究上の相談に応じている。

2003年にこのインターンシップ事業を開始して以来、すでに数多くの日本人および外国人のインターンシップを受け入れている。新潟大学、国際大学、東京大学、島根県立大学、モントレー国際大学院、モスクワ大学など様々な場所から大学院生が ERINA に滞在し、研究業務を体験している。また、彼ら／彼女らの専門分野も、現代社会、国際関係、経済、環境、自然科学と多岐にわたる。

今回は、インドのアッサム州から国際大学（新潟県南魚沼市）に留学しているカシャップ・ラギニーさんをインターンシップとして受け入れた。ラギニーさんは大学では国際関係、特に中国の外交政策を研究している。研究者としての将来を見据え、研究手法等を学ぶために ERINA でのインターンシップを選択した。朝鮮半島情勢や中国の「一帯一路」構想について研究を行っている三村光弘主任研究員がメンターとなり、その指導の下でラギニーさんの出身地であるアッサム州を中心とするインドの北東地方とその周辺にある中国、ミャンマー、バングラデッシュなどの国際関係について調査し、その研究成果を ERINA で報告をした。





8月27日の今日、2020年7月2日から始まった ERINA でのインターンシップが最終日を迎えた。新潟市にある ERINA での夏季インターンシップに応募した理由は、研究業務の経験を積みたいこと、そして夏休みを南魚沼市で過ごしたくないと思っていたからだ。現在、私は国際大学に在学し、国際関係学修士号の取得を目指している。国際大学は、世界各国から様々な人が集まるとても多様性に富んだユニークな大学だ。国際大学の寮生活は文化的にも充実している。それでも、国際大学は日本の農村部にあり、授業のない夏休みを学外で楽しめる場所があまりない。そういう理由で、私は、学びながら日本の都市生活を垣間見れる新潟市で2カ月間過ごすことを決めた。

訪日する前は、インドのデリー大学カマ

ラ・ネルー・カレッジに在籍し、3年間を南デリー市の繁華街で過ごした。大学時代には政治学を専攻し、それを様々なアプローチを使って研究することを学んだ。日本への留学を決めたのは、もともと東アジアの文化に興味があったからだ。最終的には、インドの東アジア政策を研究することにしようと考えている。私は、インド北東部のアッサム州の出身で、インドが多様性に富んだ国であることから、「多様性の統一」という考え方を強く信じている。

ERINA では、三村光弘主任研究員の指導の下で、2カ月にわたってインターンシップを行った。三村主任研究員から学んだことは多く、日本や中国をはじめとする北東アジアについてだけではなく、母国インドについても多くのことを教えてくれた。また、三村主任研究員の相互コミュニケーションを多く取り入れた情報に満ちた指導で、様々なことが勉強できて嬉しかった。インターンシップ前は、中国東北部、北朝鮮、中国南西部、東シナ海などの地域のことをほとんど知らなかったが、インターンシップを終えた今、これらの地域についてはある程度の知識があると自信を持って言えるようになった。それだけではなく、三村主任研究員は日本の人口動態や文化についても多くのことを教えてくれた。ERINA の皆さんからは、フォーマルとインフォーマルの両方の交流を通してたくさんのことを学んだ。

新潟市での生活は、南魚沼市での生活とは良い意味で大きく異なった。新潟駅周辺のレストランで焼き肉などいろいろなものを食べた。南魚沼にはない水族館に行き日本の都市生活を楽しんだ。夕方になると、信濃川の土手をたびたび歩いて、時には夜景などを撮影した。

今回のインターンシップと新潟市での滞在は、リフレッシュできたと同時に充実したものとなった。

（国際大学国際関係学研究科1年
カシャップ・ラギニー）